

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2009年第38週  
(9月14日～9月20日)

- \* 2009年9月28日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「麻しん対策の動き」も掲載しています。

平成21(2009)年9月29日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)

FAX：03-5332-7365

e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

# 全数把握対象疾患 報告数 2009年38週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				全国(診断週)		
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	62	56	73	65	2971	272	19102
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1 鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					2		8
	細菌性赤痢				3	33	8	126
	腸管出血性大腸菌感染症	30	13	21	17	248	89	2791
	腸チフス					10	1	23
	パラチフス	1				7		15
四類	E型肝炎					6	1	38
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	3	1	1	16	1	95
	エキノコックス症					1		17
	黄熱							
	オウム病					1		15
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					2		108
	デング熱	3	1	2	3	22	2	56
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						2	62
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1		1		19		45
野兔病								
ライム病					1		5	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	3	2		2	42	6	497	
レプトスピラ症						1	12	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週		38週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	1	4	4	2	103	6	581
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1		1	28		166
	急性脳炎 *2	2		2		19	6	178
	クリプトスポリジウム症					1		12
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1				12	2	93
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					9		86
	後天性免疫不全症候群	8	4	11	8	361	14	1065
	ジアルジア症					18	1	55
	髄膜炎菌性髄膜炎					1		9
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	9	4		5	150	8	520
	破傷風		1			5	4	82
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					10		73
	風しん	2		1		13		129
麻しん			1	6	94	9	635	
新型※	新型インフルエンザ ※2 ※3	61	—	—	—	1187	—	5038
2009/9/28計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※新型インフルエンザ等感染症 ※2 2009年4月28日に指定された。2009年4月28日から7月23日の期間は全数届出。2009年7月24日から8月24日の期間は集団発生事例に関連した届出。

※3全国集計は7月24日6:00現在の国内発生累計値(検査対象者を含まない。)

### (全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

**結核 65件** 肺結核39件、その他の結核6件、肺結核及びその他の結核1件、無症状病原体保有者16件、疑似症患者3件で、推定感染地は国内64件、中国1件、年齢は10歳未満5件、20歳代4件、30歳代8件、40歳代8件、50歳代5件、60歳代7件、70歳代9件、80歳代15件、90歳代4件であった。

〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 3件** 患者2件、無症状病原体保有者1件で、菌種は全てソネネである。推定感染地はベトナム2件、トルコ1件、推定感染経路は全て飲食物による経口感染であった。

**腸管出血性大腸菌感染症 17件** 患者6件、無症状病原体保有者11件。血清型・毒素型はO157(VT1VT2)9件、O157(VT2)5件、O111(VT2)1件、O145(VT1)2件で、そのうちO157(VT1VT2)3件は同居家族、O157(VT1VT2)2件及びO157(VT2)1件は既に患者発生が確認されている飲食店での喫食歴がある。年齢は10歳未満6件(うち5歳未満2件)、10歳代3件、20歳代3件、30歳代2件、40歳代3件であった。

〈四類感染症〉

**A型肝炎 1件** 推定感染地はインドで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

**デング熱 3件** 3件中2件は血清型の報告があり、2型1件、3型1件であった。推定感染地はカンボジア・ベトナム・ラオス1件、パプアニューギニア(東セピック)1件、マレーシア1件である。

**レジオネラ症 2件** どちらも肺炎型で、年齢は60歳代1件、80歳代1件。推定感染地は国内1件、トルコ1件で、推定感染経路は水系感染1件、その他(不明)1件である。

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 2件** 腸管外アメーバ症1件、腸管及び腸管外アメーバ症1件で、推定感染地は国内1件、東南アジア1件、推定感染経路はどちらも性的接触であった。

**ウイルス性肝炎 1件** B型で、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

**後天性免疫不全症候群 8件** 無症候キャリア7件、AIDS1件で、無症候キャリアの年齢は20歳代2件、30歳代4件、40歳代1件、AIDS患者の年齢は40歳代1件である。推定感染地は全て国内、推定感染経路は性的接触7件(同性間5件、異性間2件)、不明1件であった。

**梅毒 5件** 早期顕症梅毒Ⅱ期1件、先天梅毒2件、無症候2件で、推定感染地は国内4件、国内及び中国1件、推定感染経路は母子感染2件、性的接触3件(同性間2件、不明1件)であった。

**麻しん 6件** 麻しん(検査診断例)1件、麻しん(臨床診断例)1件、修飾麻しん(検査診断例)4件で、年齢は10歳未満3件(うち5歳未満2件)、20歳代1件、30歳代2件。麻しん含有ワクチン接種歴は1回2件、不明4件であった。

※第35週該当分として、三類 腸管出血性大腸菌感染症 1件(患者、O157VT2)、五類 風疹 1件(臨床診断例、風しん含有ワクチン接種歴なし)、第37週該当分として、五類 後天性免疫不全症候群 1件(無症候キャリア、同性間性的接触)の追加報告があった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2009年38週

定点種別	対象疾患	2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		35週	36週	37週	38週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	19	27	15	27	0.19	142	150
	咽頭結膜熱	16	9	8	6	0.04		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	59	82	94	0.66		
	感染性胃腸炎	362	422	469	382	2.69		
	水痘	47	44	35	53	0.37		
	手足口病	179	176	171	123	0.87		
	伝染性紅斑	33	29	21	21	0.15		
	突発性発しん	107	88	97	90	0.63		
	百日咳	6	5	4	5	0.04		
	ヘルパンギーナ	178	169	143	115	0.81		
	流行性耳下腺炎	109	78	91	88	0.62		
	不明発しん症 (注1)	18	21	13	16	0.11		
MCLS(川崎病) (注1)	2	1	0	2	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	856	1,064	1,694	2,818	10.21	276	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	1	1	4	0.11	38	39
	流行性角結膜炎	18	13	18	15	0.39		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	0	0	0.00	21	24
	無菌性髄膜炎	2	0	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	6	0	9	5	0.24		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	2	0.10		
2009/9/28集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

# 風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

### (定点把握対象疾患のコメント)

- ・流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は微減した。しかし今年に入ってから過去5年平均と比較して高いレベルで推移している。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は引き続き増加し、注意報の基準となる定点当たり報告数10を超えた。感染症法施行(1999年)以来、最も早い注意報発令であり、注意が必要である。

### (定点医療機関からのコメント)

\* インフルエンザに関するコメントは13-14頁にまとめて記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年38週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	2			10				1		1
～11か月	7			44	1	8	2	38		10
1歳	13	2	1	38	11	41	3	44		36
2歳	3	1	3	35	11	27		6	1	23
3歳	2		4	22	6	14	3	1		16
4歳		2	12	26	7	13	4		1	8
5歳			18	27	4	7	3			5
6歳			14	21	4	6	2			2
7歳			9	18	7	2	1			3
8歳			8	25		1	1			5
9歳			7	13	1	1	1			
10～14歳		1	13	48			1		1	
15～19歳			1	14						2
20～29歳			4	41	1	3			2	4
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	27	6	94	382	53	123	21	90	5	115
先週比	12	-2	12	-87	18	-48		-7	1	-28

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月						
～11か月	1	1		4		
1歳	5	5	1	24	1	
2歳	12	5	1	42		
3歳	12	1		46		
4歳	19	1		69		
5歳	12			94		
6歳	5			131		
7歳	6	1		158		
8歳	4	1		148		
9歳	4			174		
10～14歳	3			1174		1
15～19歳	1	1		466		
20～29歳	4			76	1	2
30～39歳				91	2	7
40～49歳				98		3
50～59歳				19		
60～69歳				3		1
70～79歳				1		1
80歳以上						
合計	88	16	2	2818	4	15
先週比	-3	3	2	1124	3	-3

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年38週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		2
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		1
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		1
30～39歳		2
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		6

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年38週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田								2		
中央区				5		1	1	1		1
みなと	12	4	4	24		11	1	5		6
新宿区			2	6				3		2
文京			2	3				1		
台東	5		1	13	1	14	1	2	2	1
墨田区			1	1		4		1		
江東区	1		8	30	1		1	4		7
品川区	1		1	29		3	1	7		3
目黒区				5	1			1		1
大田区	2		11	41	7	8	3	5	2	11
世田谷			1	14	1	3	3	4		2
渋谷区			1	7		7		2		2
中野区	1		4	28		3	2	1		11
杉並			2	26	2	2	1	3		1
池袋			1	1						
北区		1		1	1	4		7		
荒川区			3	4	2	4				
板橋区			1	7		1		1		
練馬区	1			4	3	1		7		6
足立				7	8	5		5		2
葛飾区			5	4	10	5	1	5		3
江戸川			4	16	1	3	3	6		16
八王子市	2		11	29	2	7		7	1	5
西多摩			1	13	1	1		2		
南多摩			6	7	3	3		1		5
町田	1		6	26	4	8	2	4		17
多摩立川			2	10		1		1		
多摩府中			3	6		5	1	1		4
多摩小平	1	1	13	15	5	8		1		9
島しょ						11				
東京都合計	27	6	94	382	53	123	21	90	5	115

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2009年38週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				7		
中央区	1			32		
みなと	3			79		
新宿区	2			79		4
文京				60		2
台東	2			67		
墨田区				84	1	
江東区	3			105		1
品川区	1			67		
目黒区				32		1
大田区	1	3		206		
世田谷	2			242		
渋谷区		1		41		
中野区	1	1		119		
杉並				88		
池袋				50		
北区	3	2		60		
荒川区	1			22		1
板橋区	2	1	1	120		
練馬区	1			164		2
足立	2			62	1	
葛飾区	1	1	1	91	1	1
江戸川	8			148		
八王子市	8	2		128		
西多摩	13			122		
南多摩	7			97		
町田	13	4		68		
多摩立川	3			113	1	2
多摩府中	8			137		
多摩小平		1		128		1
島しょ	2					

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		1
江東区		
品川区		3
目黒区		
大田区		
世田谷		1
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		1
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	88	16	2	2,818	4	15
-------	----	----	---	-------	---	----

東京都合計		6
-------	--	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年38週

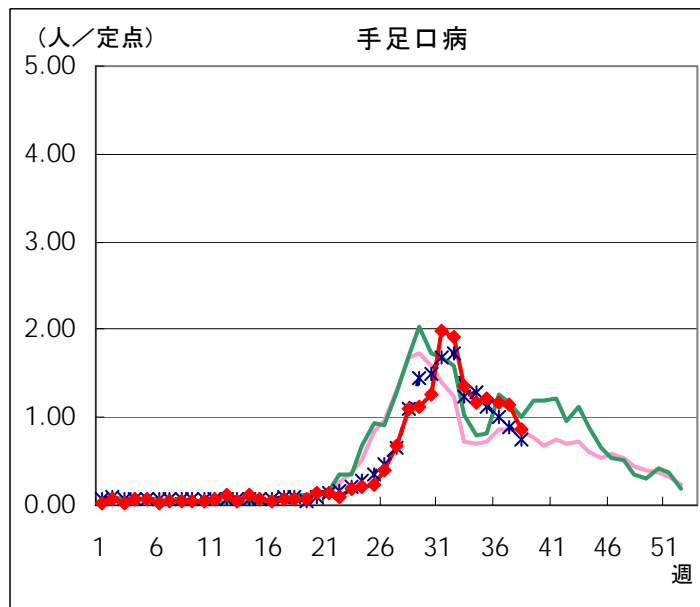
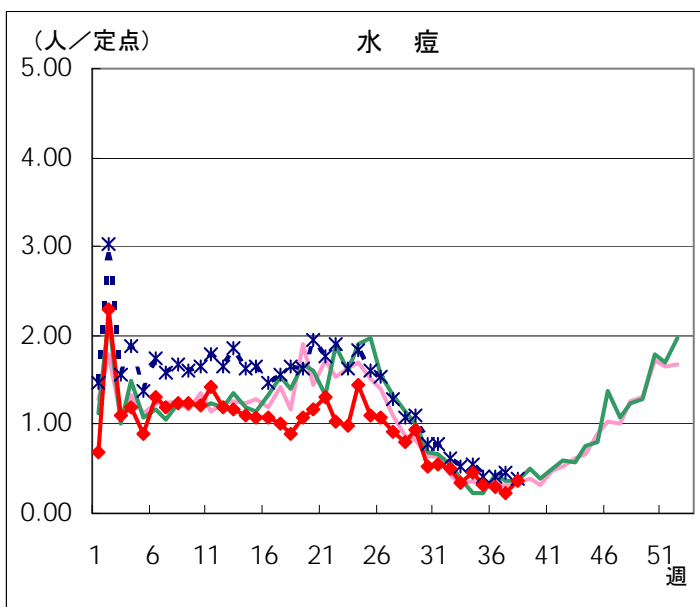
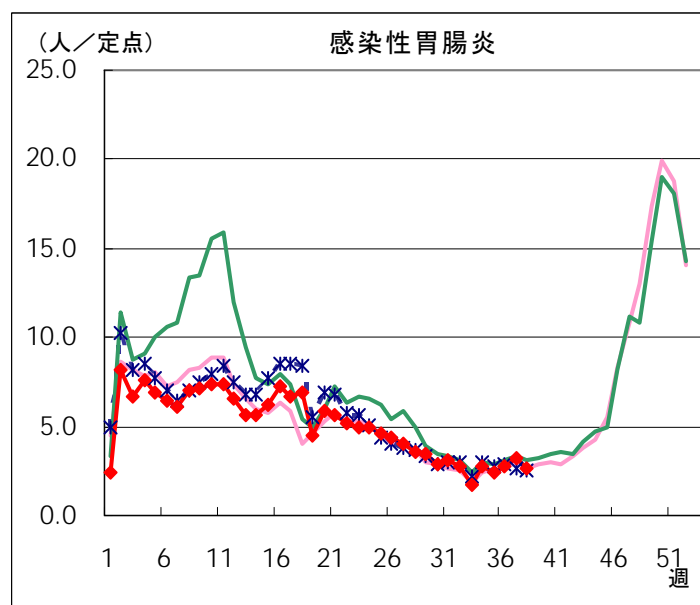
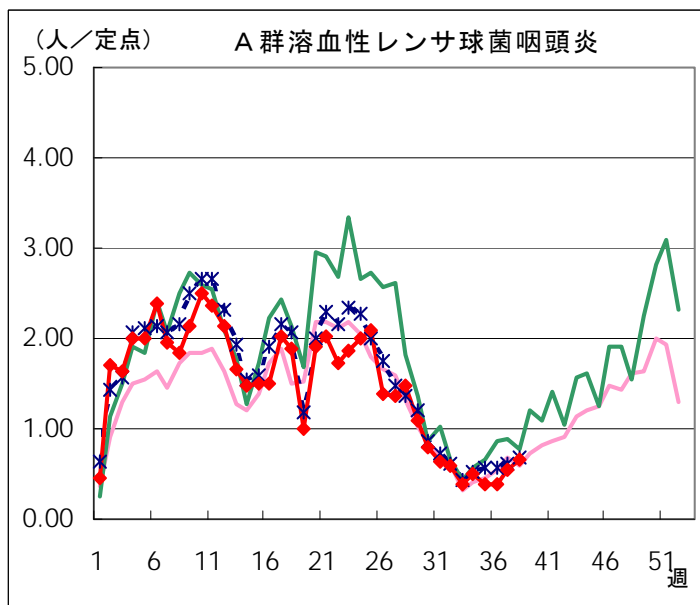
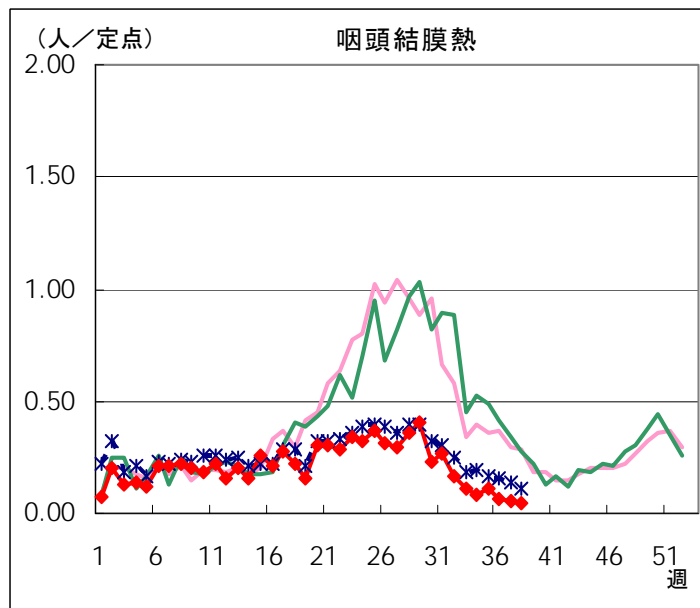
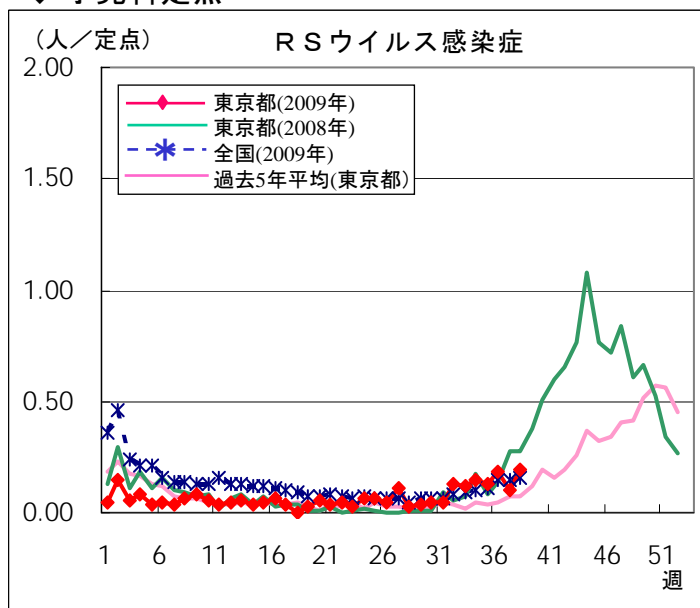
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田								1.00		
中央区				1.67		0.33	0.33	0.33		0.33
みなと	2.40	0.80	0.80	4.80		2.20	0.20	1.00		1.20
新宿区			0.33	1.00				0.50		0.33
文京			0.67	1.00				0.33		
台東	1.67		0.33	4.33	0.33	4.67	0.33	0.67	0.67	0.33
墨田区			0.33	0.33		1.33		0.33		
江東区	0.25		2.00	7.50	0.25		0.25	1.00		1.75
品川区	0.17		0.17	4.83		0.50	0.17	1.17		0.50
目黒区				1.67	0.33			0.33		0.33
大田区	0.22		1.22	4.56	0.78	0.89	0.33	0.56	0.22	1.22
世田谷			0.14	2.00	0.14	0.43	0.43	0.57		0.29
渋谷区			0.25	1.75		1.75		0.50		0.50
中野区	0.17		0.67	4.67		0.50	0.33	0.17		1.83
杉並			0.40	5.20	0.40	0.40	0.20	0.60		0.20
池袋			0.33	0.33						
北区		0.25		0.25	0.25	1.00		1.75		
荒川区			1.50	2.00	1.00	2.00				
板橋区			0.17	1.17		0.17		0.17		
練馬区	0.20			0.80	0.60	0.20		1.40		1.20
足立				1.40	1.60	1.00		1.00		0.40
葛飾区			1.25	1.00	2.50	1.25	0.25	1.25		0.75
江戸川			0.80	3.20	0.20	0.60	0.60	1.20		3.20
八王子市	0.50		2.75	7.25	0.50	1.75		1.75	0.25	1.25
西多摩			0.20	2.60	0.20	0.20		0.40		
南多摩			1.50	1.75	0.75	0.75		0.25		1.25
町田	0.25		1.50	6.50	1.00	2.00	0.50	1.00		4.25
多摩立川			0.33	1.67		0.17		0.17		
多摩府中			0.30	0.60		0.50	0.10	0.10		0.40
多摩小平	0.20	0.20	2.60	3.00	1.00	1.60		0.20		1.80
島しょ						11.00				
東京都	0.19	0.04	0.66	2.69	0.37	0.87	0.15	0.63	0.04	0.81

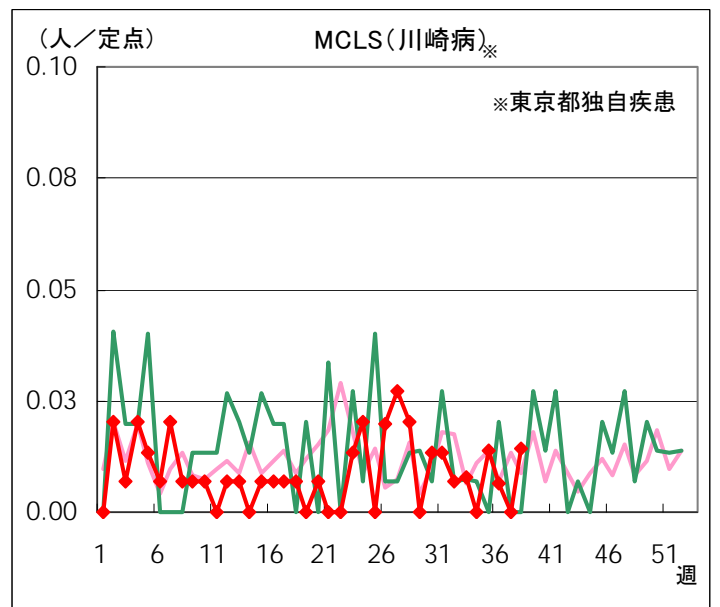
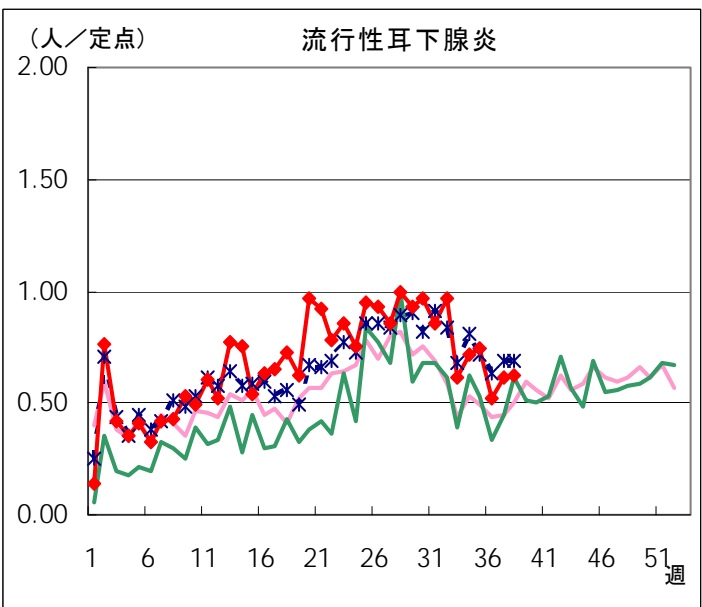
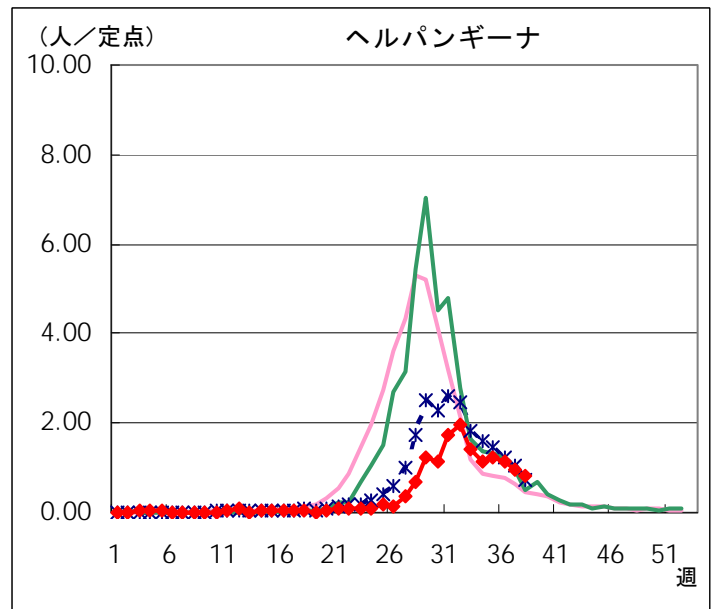
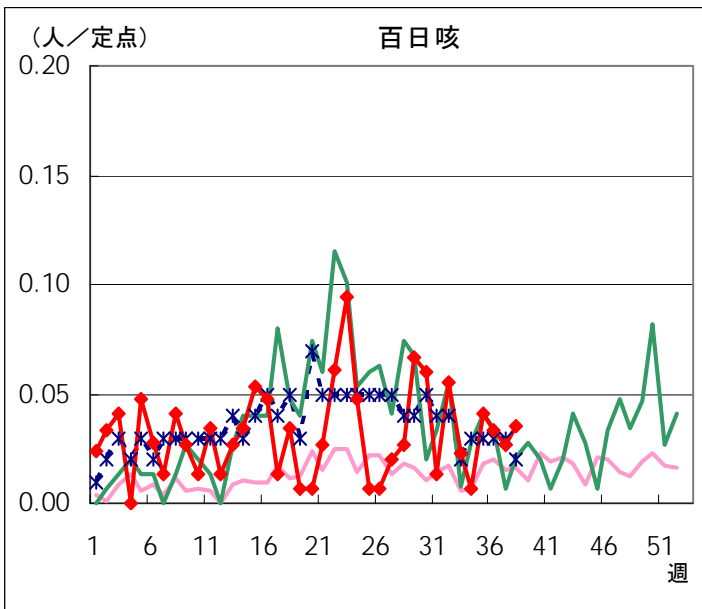
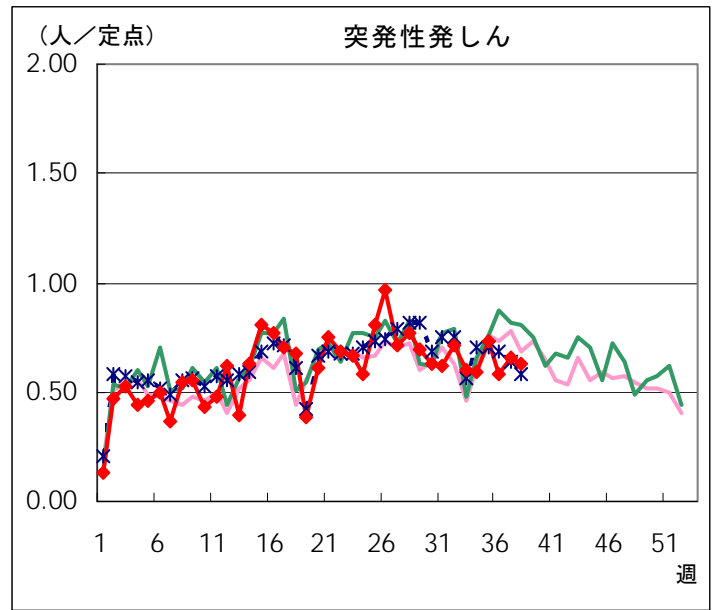
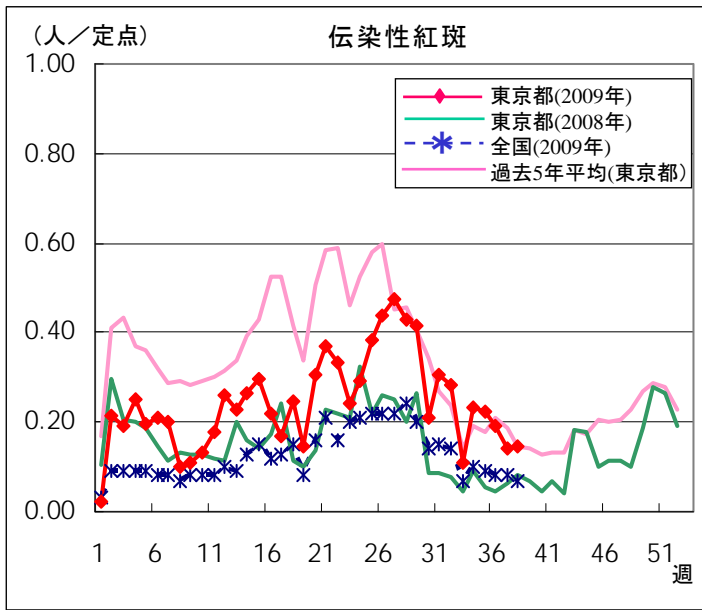


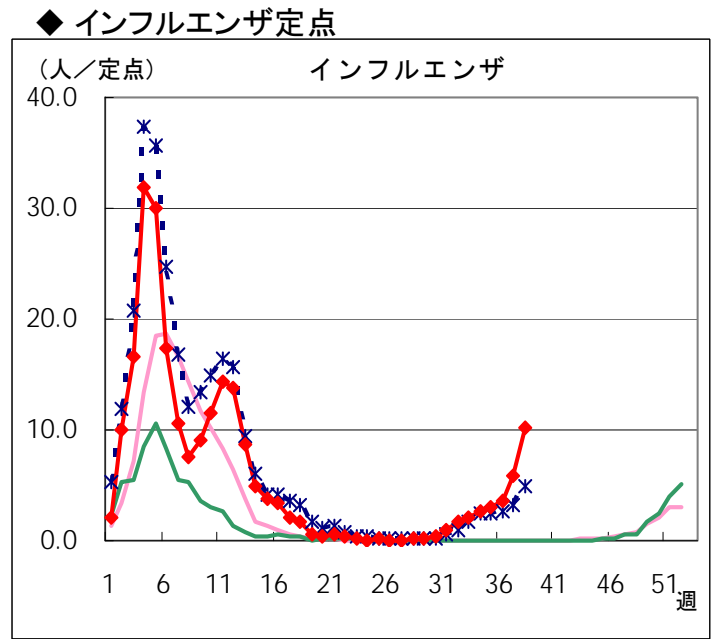
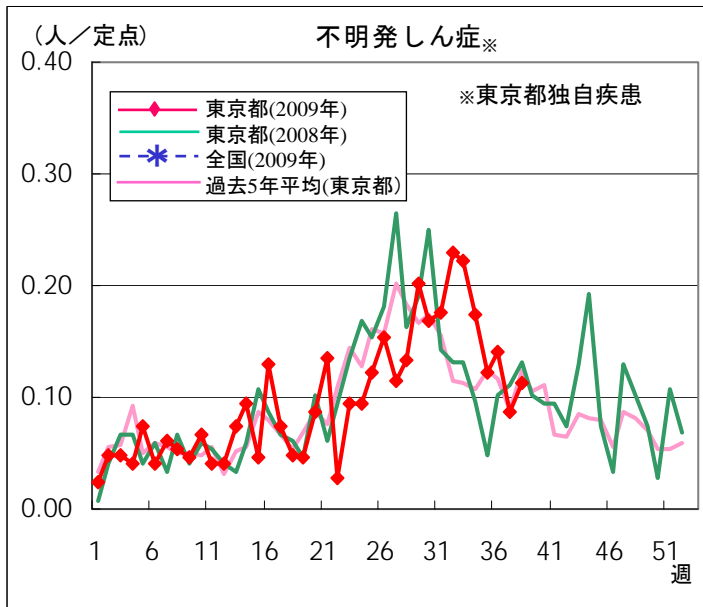
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				3.50		
中央区	0.33			8.00		
みなと	0.60			11.29		
新宿区	0.33			8.78		2.00
文京				12.00		2.00
台東	0.67			13.40		
墨田区				14.00	1.00	
江東区	0.75			11.67		1.00
品川区	0.17			6.70		
目黒区				5.33		1.00
大田区	0.11	0.33		12.88		
世田谷	0.29			16.13		
渋谷区		0.25		6.83		
中野区	0.17	0.17		13.22		
杉並				8.80		
池袋				8.33		
北区	0.75	0.50		7.50		
荒川区	0.50			5.50		1.00
板橋区	0.33	0.17	0.17	10.00		
練馬区	0.20			13.67		1.00
足立	0.40			5.17	0.50	
葛飾区	0.25	0.25	0.25	10.11	1.00	1.00
江戸川	1.60			13.45		
八王子市	2.00	0.50		16.00		
西多摩	2.60			13.56		
南多摩	1.75			10.78		
町田	3.25	1.00		8.50		
多摩立川	0.50			8.69	0.50	1.00
多摩府中	0.80			6.52		
多摩小平		0.20		9.85		0.50
島しょ	2.00					
東京都	0.62	0.11	0.01	10.21	0.11	0.39

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年38週現在

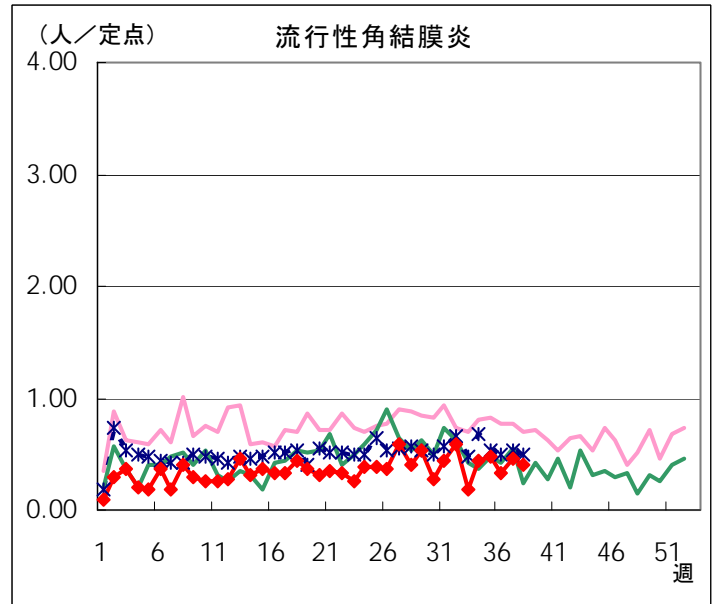
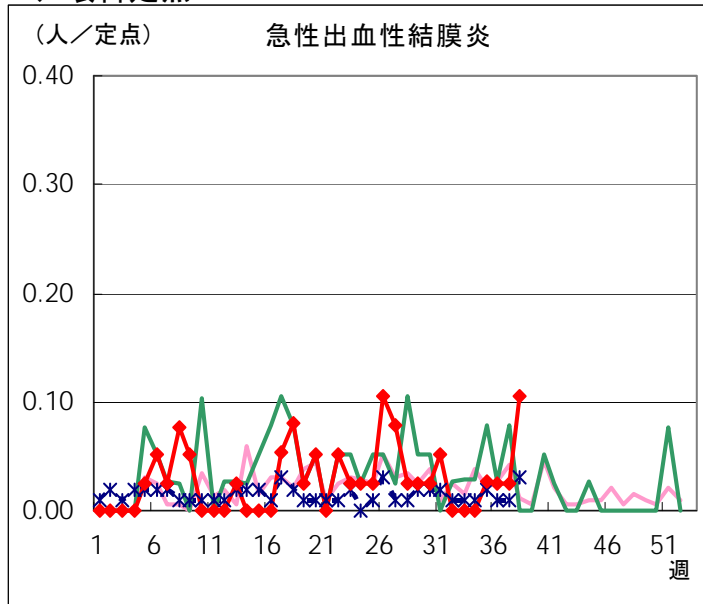
## ◆ 小児科定点



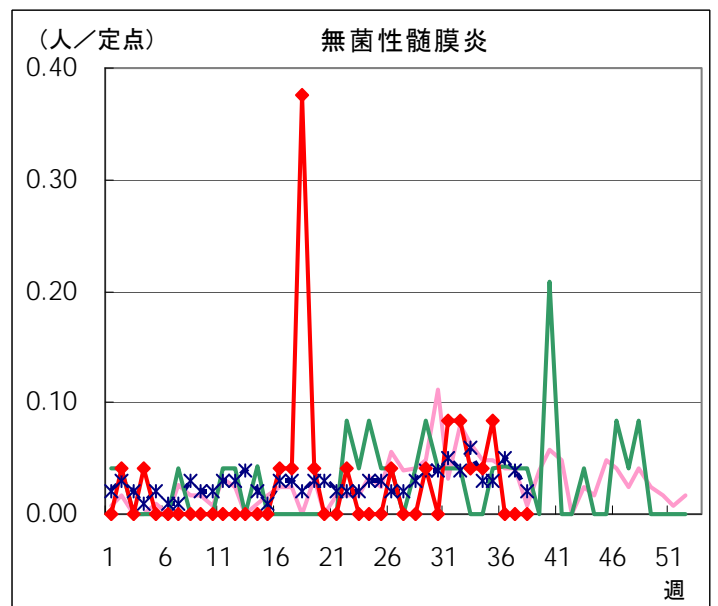
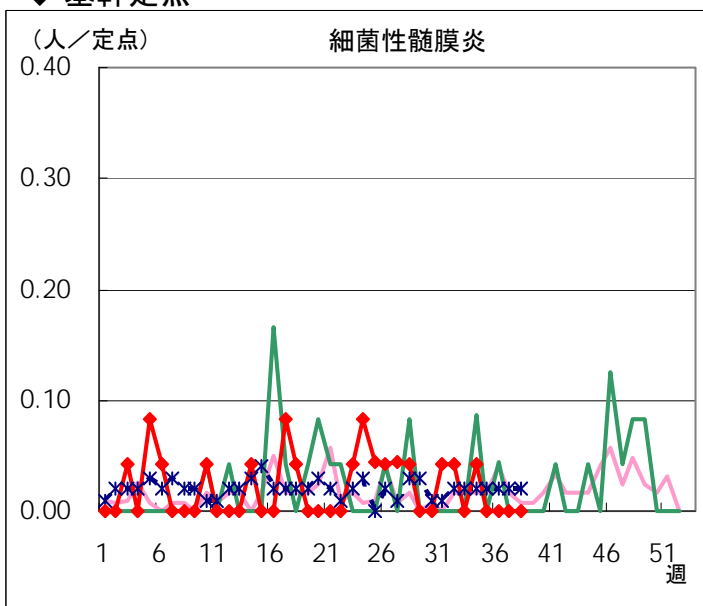


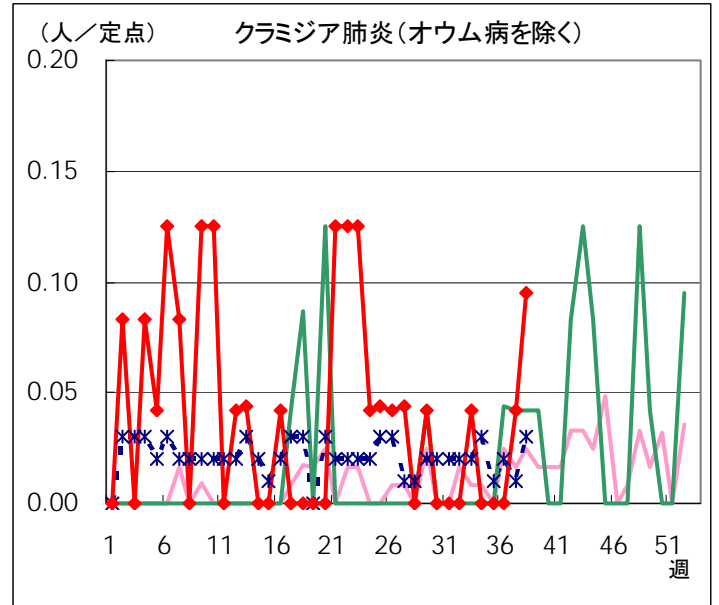
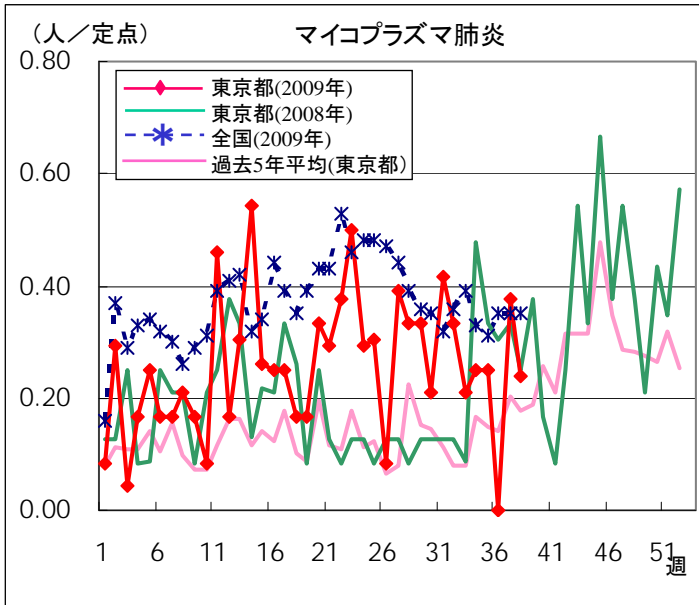


◆ 眼科定点

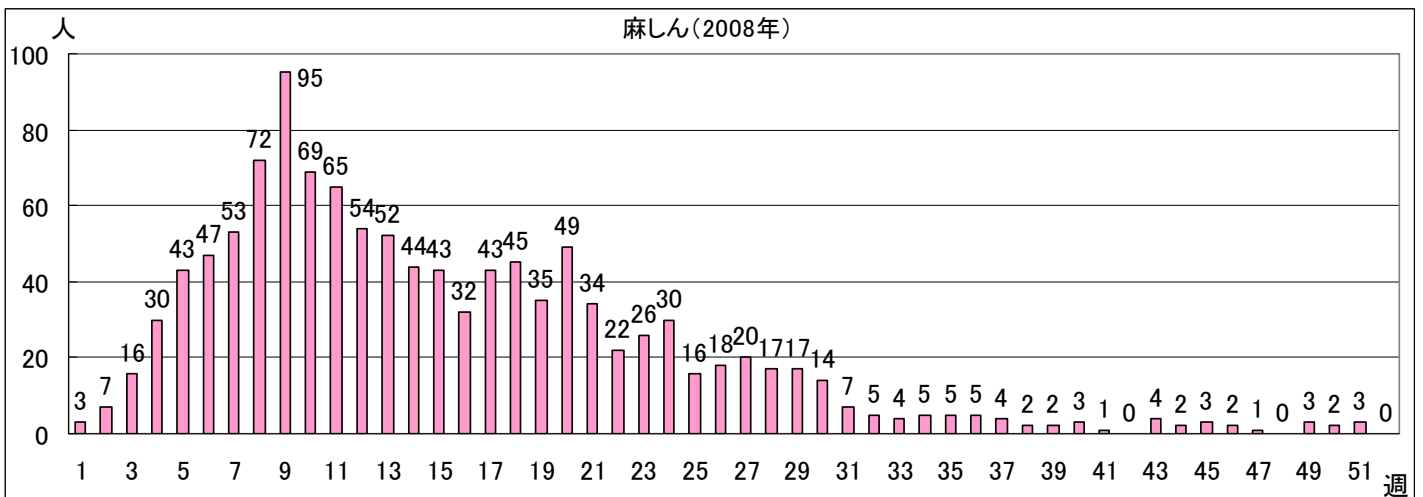
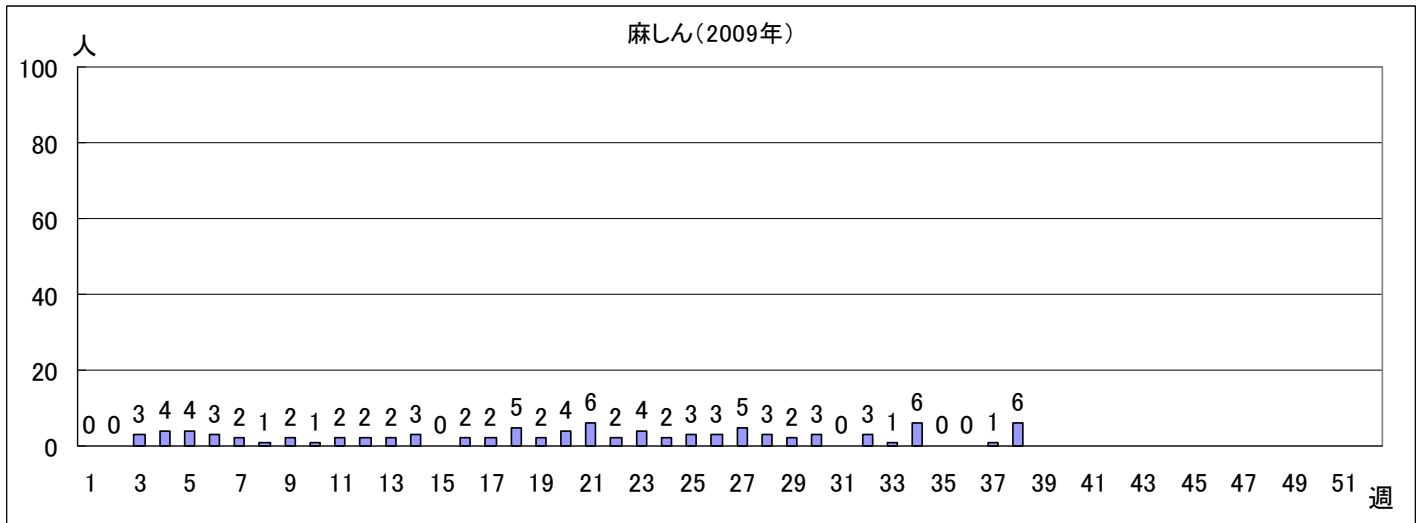


◆ 基幹定点





**全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年38週現在**



## 定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	6		A型10歳3名、13歳3名。
	5		A型5名、症状から1名。
	32		
新宿区	6		
	25		
	22		
台東	25		
江東	23		
	14		
品川区	4		
目黒区	8		
	9		
	13		
大田区	17		
	12		
	3		
	7		
	9		今週は12名です。
世田谷区		1	患者7名。B型14歳1名。
	11		
	4		
	1		
	8		
中野区	18		A型18名、臨床症状や状況からインフルエンザと考えられるもの7名。
	8		
	35		
	6		
	7		
	9		
	12		
	9		
	8		
池袋	15		
	13		他1名。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
北区	17		
	16		
	2		
			患者6名。A型がみられます。
	3		
西多摩	2		
	15		
南多摩	18		
	6		
	11		
		2	患者10名。
	43		
町田	4		
多摩立川	2		
多摩府中	5		
多摩小平	12		
	11	1	
八王子市	1	1	A型6歳、B型2歳です。
	24		
	4		
	21		
	54		

## 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/13	急性上気道炎	6	菌株(咽頭由来)	<i>S.pyogenes</i>	血清型
8/14	急性上気道炎	記載無し	菌株(咽頭由来)	<i>S.pyogenes</i>	
8/19	急性上気道炎	2	菌株(咽頭由来)	<i>S.pyogenes</i>	
9/2	流行性角結膜炎	20	結膜拭い液	アデノウイルス	遺伝子
9/2	けいれん重積	12	鼻汁	ライノウイルス	
			糞便	ノロウイルス	
9/2	不明発しん、下痢 肝機能障害	5	糞便	ライノウイルス、EBウイルス	
			咽頭拭い液	EBウイルス	
9/3	インフルエンザ	7	鼻汁	ライノウイルス 新型インフルエンザウイルス	
9/3	インフルエンザ	7	鼻汁	ライノウイルス 新型インフルエンザウイルス	
9/3	インフルエンザ	10	咽頭拭い液	アデノウイルス 新型インフルエンザウイルス	
9/4	風しん	記載無し	咽頭拭い液	アデノウイルス、サイトメガロウイルス	
9/7	ヘルパンギーナ	記載無し	咽頭拭い液	エンテロウイルス、EBウイルス	
9/7	突発性発しん、胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
9/7	RSウイルス感染症	6M	咽頭拭い液	RSウイルス	
9/7	肺炎	1	咽頭拭い液	新型インフルエンザウイルス エンテロウイルス	
9/9	急性小脳失調	1	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
9/9	心外膜炎	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
9/9	手足口病	8	咽頭拭い液	ライノウイルス	
9/9	インフルエンザ	37	咽頭拭い液	ライノウイルス コクサッキーウイルスA群	
9/11	急性細気管支炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	

◇定点医療機関から搬入された検体の遺伝子検査法による亜型

亜型検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型)
37週	0	0	0	35
今シーズン累計**	1	0	0	51

\* AH1pdm: 新型インフルエンザウイルス(ブタ由来インフルエンザウイルスA/HINI)

\*\*新シーズン(2009-2010シーズン)の開始は36週。



## 病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2009年							
		30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週
ウイルス	アデノウイルス	4	4	3	4	4	1	5	3
	ライノウイルス		1	1			2	3	8
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								1
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								2
	その他のエンテロウイルス	5	18	6	2	11	10	7	
	単純ヘルペスウイルス	1					1	1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	1	6	2	4	4	3		
	EBウイルス	1	2		1	1		1	3
	サイトメガロウイルス			1	1	1			2
	ムンプスウイルス	3	2	1	1	2			
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19		1	1					
	RSウイルス	1	1		1				1
	ノロウイルス		1						2
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1						1	1	
	インフルエンザウイルスAH3						2		
	インフルエンザウイルスB								
新型インフルエンザウイルスAH1pdm		18	21	16	25	25	16	35	
デングウイルス(抗体を含む)					1	1	2		
その他のウイルス	9	3							
細菌	カンピロバクター						2		
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌			3				2	3
	その他の細菌		2	3					
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2009年30週～2009年37週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	164	28	63	33	71	4	6	8	4	13	1	22	7		2	1	128	
ウイルス	アデノウイルス	2	3	5	1	1		6		2		1				1	5	
	ライノウイルス	3	1	1	1		1			1		1					5	
	ポリオウイルス			1													1	
	コクサッキーウイルスA群	1																
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71			1					1									
	その他のエンテロウイルス	2	8	5	2	12			1	10		7					12	
	単純ヘルペスウイルス		1															2
	水痘・帯状疱疹ウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		1	1						1		9	1					7
	EBウイルス		1						1			1	3					3
	サイトメガロウイルス									1		1					1	2
	ムンプスウイルス					5								4				
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19												2					
	RSウイルス			4														
	ノロウイルス				1													2
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1	2																	
インフルエンザウイルスAH3	2																	
インフルエンザウイルスB																		
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	151		5															
デングウイルス(抗体を含む)																	4	
その他のウイルス		4	4	1													3	
細菌	カンピロバクター				2													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		5					3										
その他の細菌			2	1			1										1	
その他の病原体																		

## <感染症豆知識>

### 麻疹対策の動き

新型インフルエンザ騒動で麻疹問題の影がすっかり薄くなっているが、わが国では、まだまだ解決を見ていない状況である。このような時代背景の中、麻疹予防接種に関しては昭和53年の定期接種導入のままの1回法であったのが、平成18年の改正で小学校就学前に2回目がやっと導入された。しかし平成19年の流行を踏まえ平成20年の改正で5年間の時限措置として中学1年生、高校3年生相当年齢に2回目の麻疹と風疹ワクチンの追加接種が導入され強化されたところである。また麻疹・風疹の全数把握体制も整備されたが、実態は遅々として効果が出ているとは言えない状況である。

そこで、麻疹対策会議が東京都で平成20年に発足し、2回の会議が行われた。平成19年の流行の分析から判明していることは①主に東京など大都市での流行、②15歳以上の成人麻疹が多かったこと、③東京都は特に第3期、第4期予防接種率が全国46位、47位と低迷していることであった。この解決に向けた課題は、麻疹排除計画である予防接種率95%以上をいかに達成できるかであったが、(A)各地区での予防接種台帳の電算化整備による未接種者把握ならびに接種勧奨推進、(B)学校関係者、とくに校長先生、養護教諭の先生方への働きかけは重要で、教育委員会との連携が必要と再認識され動き出したところである。平成20年度末の東京都の結果は1期:93.8%、2期:88.7%、3期:76.4%、4期:61.3%であった。東京小児科医会でも小児保健ネットワークが整備され、各地区の予防接種に関する情報の共有化が始まったところである。

(文責 沼口小児科 沼口俊介)